

特集

曾於市から

挑んだ全共



第12回

全国
和牛能力
共進会

鹿児島
大会

高麗島県立曾於高等学校
笑顔輝き夢かたち



曾於市から出品した方の結果（敬称略）

●特別区（高校及び農業高等学校）

しえな号 曾於高等学校



1 席

農林水産大臣賞

●第7区 肉牛の部（脂肪の質評価群）

左之介号 ㈱加治佐畜産



5 席

農林水産省畜産局長賞



曾於高校の「しえな号」
毎日のシャンプーで毛はふわっふわっ



大会を終え取材を受ける曾於高校の皆さん

10月6日から10日までの5日間に第12回全国和牛能力共進会（全共）が開催された。

曾於市からは2頭の出品があり、曾於高校が特別区（高校及び農業高等学校）で優等賞1席、㈱加治佐畜産が第7区（脂肪の質評価群）で優等賞5席を獲得。

鹿児島県全体では24頭が出品。全9区のうち6区で1席となるほか、種牛の部で4区の県代表牛が内閣総理大臣賞を受賞する好成績を収めた。

全共は昭和45年の第2回大会以来52年ぶりに鹿児島県で開催。この大会は5年に一度、全国から優秀な和牛を集めて行われる全国規模の品評会で、別名「和牛のオリンピック」と呼ばれている。和牛ブランド力の向上につながる重要な大会だ。

全共には種牛の姿や体型などの改良の成果を審査する「種牛の部」と、肉質を審査する「肉牛の部」がある。さらに今大会からは高校及び農業高等学校の特別区が新設された。会場は種牛の部の審査が行われた霧島市がメイン会場となり、肉牛の部は南九州市で行われた。出品数は41道府県から438頭。



曾於高校 牛との絆・努力が実った1席

——皆さんの担当は

矢野さん 牛の引き手

小倉さん 引き手の補助

徳重さん 取り組み発表

田實さん 取り組み発表補助

——1席の喜びは

田實さん 取り組み発表で機材トラブルがあり不安でしたが「1席」と呼ばれたときは、努力したことが報われたと思いました。

——取り組み発表では

徳重さん 自分の発表は一人何役もしてユーモアな対話を取り入れた内容。他の学校は複数人で発表していたので、自分ひとりでできるか不安でしたが、やりきることができました。

——牛の審査では

矢野さん 牛がきれいな姿勢になるまでは「アシ」や「アト」と言っ足位置を指示してました。綺麗に立った後は「ヨシ」とか「その調子」と言っ、体勢をキープできるように声掛けをしてました。本

当にいい状態になるまで粘っ

て牛を落ち着かせ、立ち姿をアピールしました。

——今後の進路や目標は

小倉さん 実家の生産牛の後継者になることです。今は6頭ほどこしか飼育していませんが、20頭に規模拡大したいと思っています。

生徒には積極的に色々なことを学ぼうとする姿勢と、分からないことは人に聞いて、耳をかたむける姿勢がありました。日本で一番になったという経験は、この子たちの頑張りの結果だと思います。胸を張ってこれからの人生を歩んでいってほしいと思います。よく頑張りました。おめでとう。



曾於高校
太田 裕士 先生

選ばれた代表牛のみ出品することが出来る全共。それだけに出品牛には大きな期待が寄せられます。

「応援してくれた人にももう少し良い結果を報告したかった。悔しさしかありません。やり残したことがかりです」

そう話すのは鹿児島県の厳しい選考を突破して「肉牛の部」7区（脂肪の質評価群）に出品し優等賞5席を受賞した加治佐龍さん。7区は3頭を1組として出品され、今大会から新設されました。

加治佐さんは末吉町の株式会社加治佐畜産の代表で、妻の久美子さんと従業員の中島貴洗さんとで500頭以上の和牛肥育を行っています。

「出発式には80人以上が駆けつけてくれて驚きました。関係機関の方など、牛に関わってくださった全ての方に感謝しています。父は過去に選考で出品を逃した経験があるので、私の出品を一番喜んでく

れたと思います」

今回の全共で好成績を残した鹿児島県。曾於地区もレベルが上がってきているそう。そこで全共に出品するために加治佐さんが選んだのは、曾於地区で育てられた牛でした。「父が『地元の牛で行け』とアドバイスしてくれました」

曾於地区で生産された牛を加治佐さんが出品し、地元企業の株式会社ナンチクが、全共会場でのせりで落札したことが嬉しかったと話します。

「曾於地区から出品できたことで開いた扉。仲間と切磋琢磨できるいい環境で牛が育てられていると思うので、この扉を閉ざさずに、次回も出品したいです」

次の全共には、今から育てる牛の評価によって出品できるか決まると言います。「日頃から良い牛を育ててアピールすることが大事」次への戦いはすでに始まっています。

加治佐龍さん 全ての方に感謝



久美子さん 龍さん

